http://decfamily.p1.bindsite.jp/2016/

We 13R

No.044　16/06/14

伸びしろを伸ばそう

昨日は初めて星陵会館で通しの演奏を聞いたが、その後、校舎に戻る時に●●さんが言っていた「13Rは、合唱にしろ勉強にしろ、伸びしろがあるってこと。物事は楽観的に考えないとね！」というのは、正鵠を射ているといえるだろう（笑）。

本番前８日の現状としては、まあ平均的なところかも知れない。ヨレヨレであっても（笑）とりあえず両曲とも最後まで歌えていたし、最初から最後まで通して時間を測ろうと決めて、それをキッチリやり遂げたのだから、結果として９分ギリギリだったけれど、成果があったといえるだろう。

ただし、みんなも分かっている通り、歌の方はまだまだ「伸びしろがある」。今の段階では「歌っている」だけであって、「合唱」にはなっていない。合唱は「合わせる」ものだから、各パートが自分たちのパフォーマンスを最大に発揮しながらも、他のパートの演奏を聴きながら、それに合わせ調整して「唱う（うたう）」ことが大切だ。しかし、今は、自分たちのそれぞれのパートを正しく的確に歌うこと、つまり、自分たちのパフォーマンスを最大にすることを目指している段階で、まだ他のパートを聴いて調整する段階には至っていないのが現状だろう。

とにかく、今週は、それぞれのパート（特に男子）が自信をもって唱えるようにすることだ。先ずは正確な音程・リズムを確かめ、次に表現を工夫する。メゾピアノであっても声を遠くに届けるにはどうしたらよいのか（例えば、腹から声を出すことで、小さくとも力強いウェーブを聴衆に届けるとか）、特徴的な高音部を美しく響かせるにはどうしたらよいのか（例えば、姿勢を正して身体全体で共鳴させながら視線の方向に声を飛ばすとか）、それぞれのパートで話し合って工夫しよう。同時に、各パートリーダーは情報を交換し、自分のパートのみならず、他のパートにも気をかけて、クラス全体で向上するように努めてほしい。

ピアノや指揮者も、パートリーダーを支えながら、それぞれの練習が大切だ。審査委員長の講評の際には、ピアノや指揮に関する言及もある。目立ちすぎることなく、それでいてクラス全体をまとめているか、信頼されているかは、演奏全体の印象に大きく関係してくるものだ。

さて、今述べたこと以上に大切なのが、個々の協力だ。以前、興梠先生が「人の話は目で聞くモノだ」とおっしゃっていたが覚えているだろうか。パートリーダーが話している時は、ちゃんとパートリーダーに注目しよう。そのことによって、パートリーダーも自分の話がどれくらい伝わっているのか確認できるのである。

人をまとめたり、欠点を敢えて指摘したりすることがどれだけ大変なことかは、君たちなら想像できるはずだ。そういう仕事を任せている人に、どうやって協力したらよいのか、どうやって協力したらその人たちの大変さに応えることができるのか、一人一人が考えてそれを行動として表現してほしいし、互いにアドバイスしあってほしい。日比谷の三大行事は、そういうことを考えたり、学んだりすることで、君たちを高校生としても成長させてくれるに違いない。